

# 海神会 関東支部便り (No.12)

## 平成 27 年度 定時総会のご案内

初夏の候、益々ご健勝の段お慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、標題の平成 27 年度定時総会を下記に開催しますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいます様お願いいたします。

### 記

日時 6 月 24 日 (金) 17 : 00 ~ 定時総会 18 : 00 ~ 懇親会

会場 神戸大学東京六甲クラブ (Tel : 03-3211-2916)

- 総会予定議題
1. 海神会本部総会[5/28(土) 於深江]の報告
  2. 平成 27 年度事業並びに会計報告・会計監査報告
  4. 退任・新任役員の紹介
  5. 平成 28 年度事業計画並びに会計予算
  6. 神戸大学学友会 (東京支部)・東京六甲クラブ関係

引き続き同じ会場で懇親会(会費 3,000 円)を行います。

◎ 出欠の連絡を 同封のハガキに切手を貼付して投函、or E-mail にて 6 月 15 日迄に  
 お願いします。E-mail : kajinkaikantoh@yahoo.co.jp

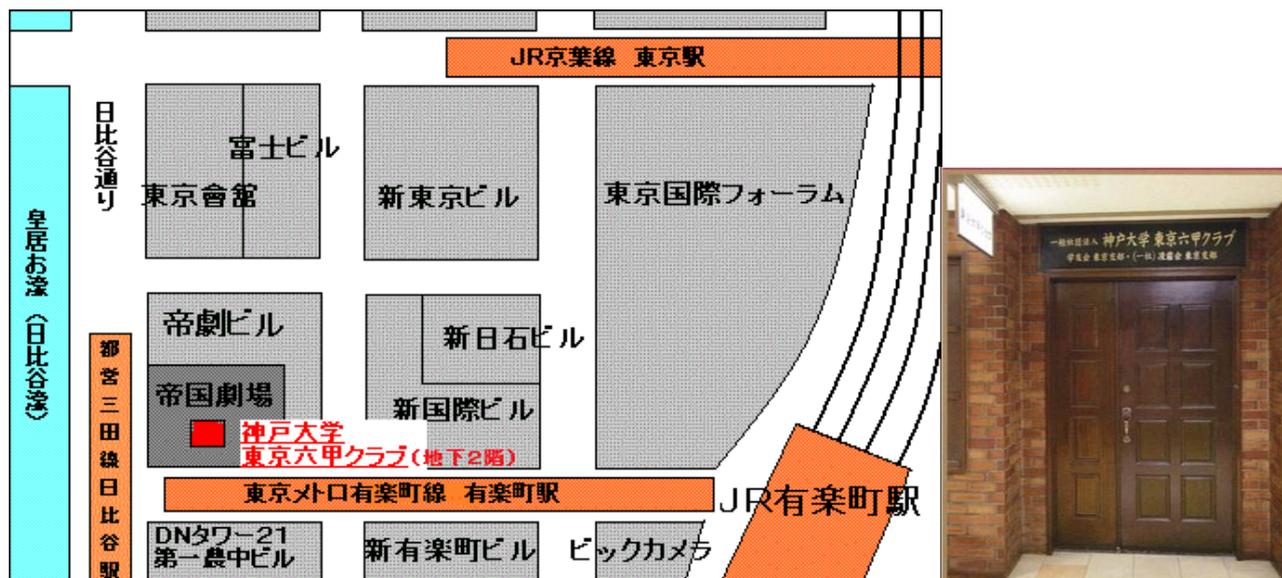
出欠連絡ハガキには、会員の近況連絡用として「My 近況」欄を設けています。

お寄せ頂いたものをまとめて次の“海神会関東支部便り No.13”に掲載します。「どんな内容でも結構ですから、是非ご記入、お寄せ下さいますようお願いいたします。

### 目次

定時総会の案内	……1
総会予定議題 1. 海神会本部総会(5/28 於 深江)の報告(定時総会でのみ)	
2. 平成 27 年度活動報告・決算	……2
3. 平成 28 年度活動計画案・予算案	……5
4. 新・退任役員紹介	……5
5. 神戸大学学友会東京支部・東京六甲クラブ関係	……6
会員往来	……6
会員の広場「Bridge」	……7
事務局からのお知らせとお願い	……9
母校の現況と第 2 世紀への進展	……10

◎神戸大学東京六甲クラブについて（千代田区丸の内 3-1-1 帝劇ビル B2）



最寄り駅

- ◇東京メトロ有楽町線 有楽町駅 B3 出口直結
- ◇都営三田線 日比谷駅 B3 出口 直結
- ◇山手線 有楽町駅 国際フォーラム口 徒歩 3分

2. 平成 27 年度事業報告・決算

2.1 平成 26 年度 関東支部定時総会（平成 27 年 6 月 26 日）

支部会員 37 名の出席のもとに議案に沿って順調に審議して戴き次の議案全て承認をされました。尚、詳細は、関東支部便り No.11 に報告掲載されていますので、参照願います。

- 2.1.1 本部総会報告
- 2.1.2 平成 26 年度活動報告
- 2.1.3 会則改定
- 2.1.4 役員の改選
- 2.1.5 平成 26 年度決算の承認
- 2.1.6 平成 27 年度活動予定
- 2.1.7 平成 27 年度予算案の承認

2.2 平成 27 年度活動報告

- 2.2.1 海神会本部 理事会・総会(5 月 24 日)
- 2.2.2 総会の案内状（約 1,100 通）の袋詰めを兼ねた幹事会の開催、  
終身会費などについて討論されました。
- 2.2.3 理事会・定時総会・懇親会の開催（6 月 26 日）  
平成 26 年度の活動報告・会計報告とその会計監査報告が承認されました。  
会則の改定で終身会費の取扱が決められました。  
役員の新選では、全員再選されました。  
平成 27 年度活動予定と予算案が承認されました。  
続く懇親会では海神会副会長:23N 林 祐司 海事科学部長、26E 内田 誠教授(次期海事科学部長)を迎え、総勢 39 名により情報交換、思い出話などの歓談の花が咲きました。
- 2.2.4 海洋会に協力、  
“会誌” 配送の手伝いと仲間の情報交換、“万歩の集い” などに協力

### 2.2.5 神戸大学東京六甲クラブ行事に協力、

神戸大学の教職員、学生及び卒業生に関東地域における活動拠点を提供して会員相互の研鑽と交流・親睦を図り、もって神戸大学の学術振興に寄与することを目的としており、神戸大学学友会東京支部の機能も果たしています。

○9 月 24 日の第 118 回木曜会にて 13E 田中貴雄氏が「ガスで冷やすビル空調—吸収冷凍機四方山話—」を卓話した。

○学部別会員状況では、旧凌霜(経・営・法):887、工:82、農:32、次いで海事科学:30 です。

### 2.2.6 関東支部便り No.10、No.11 「My 近況を掲載」の発行、

My 近況は情報交換の場でもありますので、返信はがきへの記述宜しくお願いします。

### 2.2.7 事務局メール便の継続 (約 1 回/月)

○最近の例

・1 月 17 日 の神戸新聞の阪神淡路大地震の関連記事に「若き船乗り住民 100 人救った」と神戸商船大寮生の活躍が掲載されました。

神戸新聞 NEXT <http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201601/0008725394.shtml>  
で読むことができます。

○海事科学部 Web からの最近の事例

- ・2016.01.04 大学院生 大島 逸平さんが第 24 回微粒化シンポジウム優秀講演賞を受賞
- ・2016.01.04 海洋ロジスティクス科学科 4 年 上田裕洋さんが大気環境学会近畿支部研究発表会ベストプレゼン賞を受賞
- ・2016.03.10 大学院生 南 慎一郎さんが 2015 年度日本エネルギー学会奨励賞(微粒化シンポジウム部門)を受賞
- ・2016.03.09 松本秀暢准教授が「第 33 回 村尾育英会学術奨励賞」を受賞

○実施されたセミナー・会議等

- ・「輸送の三原則を統合した国際海上輸送システム創出の研究」平成 27 年度研究成果報告会 (3 月 1 日)
- ・留学生のための日本文 化体験研修行事 (2 月 19 日)
- ・小林英一教授 最終講義 (3 月 16 日)
- ・塩谷茂明教授 最終講義 (3 月 4 日)
- ・国際海事研究センター 海事環境エネルギー研究部門セミナー「海洋環境と海洋エネルギー利用に関連する技術」(2 月 24 日)
- ・2016.04.12 小田啓二教授が放射線審議会委員に任命されました
- ・2016.04.01 橋本博公准教授が強非線形流れに関する国際会議 (3rd International Conference on Violent Flows) の共同議長を務めました
- ・2016.04.01 小林英一教授の最終講義が行われました
- ・2016.03.28 大学院生 小西 宗さんが 日本人間工学会関西支部 優秀発表賞を受賞

○神戸大学東京六甲クラブの主な行事の紹介

「神戸大学学友会事務局からのお知らせ」の pdf ファイルを添付

### 2.2.8 海神会本部 評議会(10 月 31 日)

### 2.2.9 事務局業務

- ・会員名簿の整理、支部会計、関東支部便りの発行、本部との連携、議案書の作成など

2.3 平成 27 年度決算

収入においては皆様のご支援の陰で予算を大きく上回る 352 千円を計上できました。支出においては約 595 千円と予算内運営ができました。その結果次期繰越金（年会費など+終身会費）は約 1,869 千円と前年から約 248 千円の増加となりました。尚、この収支報告は次回の関東支部定時総会に上程されます。

海神会関東支部				
平成27年度収支決算報告				
				会計期間:H27.4.1~H28.3.31
収入の部		単位:円		
項目	予算額	決算額	差異	備考
前年度より繰り越し	1,098,224	1,098,224	-	
支部運営支援費	300,000	300,000	-	本部より
支部年会費	300,000	352,000	52,000	納付者175名(内訳 終身会員:27名) 年会費 273,000円+3月末終身会費の1/10 79,000円繰入
終身会費	605,000	713,000	108,000	3月末終身会費の1/10を支部年会費へ繰入後の次年度繰越
雑収入		297	297	預金利息
合計 (A)	2,303,224	2,463,521	160,297	
支出の部				
項目	予算額	決算額	差異	備考
A 事業費				
総会費	20,000	47,700	27,700	六甲クラブ会場費、懇親会費超過の飲食費補填
理事会費	20,000	46,070	26,070	幹事会費
会報発行費	100,000	66,890	△ 33,110	関東支部便り1,200部x2回印刷費等
B 運営費				
印刷費	50,000	21,784	△ 28,216	総会資料・振込用紙印刷、用紙、プリンターインク等
通信発送費	250,000	197,308	△ 52,692	切手、ハガキ、郵送料、支部便り約1,000部x2回発送の宅急便費等
会議費	20,000	26,260	6,260	六甲クラブ理事会、学友会役員会等参加費
交通費	200,000	169,680	△ 30,320	本部総会・評議会出張費計6名等
雑費	25,000	18,868	△ 6,132	振込手数料(郵便局、銀行)
C 維持費				
学友会東京支部年会費	-	-	0	
小計 (B)	685,000	594,560	△ 90,440	
予備費 (A)-(B)	1,618,224			
次期繰り越し金(年会費等)	1,013,224	1,155,961	142,737	
終身会費繰越金	605,000	713,000	108,000	
合計	2,303,224	2,463,521	160,297	

海神会関東支部  
平成27年度 監査報告書

平成27年度決算に関し、会計担当より提出あった帳簿類、現預金額を精査した結果、正確かつ妥当であると確認しましたことをご報告いたします。

平成 28 年 4 月 27 日

監事 富久尾 義孝



監事 上野 俊雄



### 3.平成 28 年度活動計画案・予算案

#### 3.1 平成 28 年度活動計画案

- 3.1.1 海神会本部 理事会・総会(5月28日)
- 3.1.2 総会の案内状(1,000通弱)の袋詰めを兼ねた幹事会の開催、
- 3.1.3 理事会・定時総会・懇親会の開催(6月24日)
- 3.1.4 海洋会に協力、
- 3.1.5 神戸大学東京六甲クラブ行事に協力、
- 3.1.6 My 近況を載せた関東支部便り No.13 の発行、
- 3.1.7 事務局メール便の継続(1回/月)
- 3.1.8 海神会本部 評議会(10月29日)
- 3.1.9 事務局業務

#### 3.2 平成 28 年度予算案

**収入** 支部年会費は平成 27 年度と同額の 300 千円を、終身会費は在籍 14 期生 31 名の 30%が終身会費を支払うとして、10 名分を見込み 732 千(605 千)円を計上しています。

**支出** 費目毎に、平成 27 年度の実績を勘案し平成 27 年度と同額の 685 千円を計上しています。

海神会関東支部				
平成28年度収支予算(案)				会計期間:H28.4.1~H29.3.31
収 入 の 部				単位:円
項 目	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	備 考
前年度より繰り越し	1,098,224	1,098,224	1,155,961	
支部運営支援費	300,000	300,000	300,000	本部より
支部年会費	300,000	352,000	300,000	年会費納入者200名、終身会費納入者10名を見込む
終身会費	605,000	713,000	732,000	期末終身会費の1/10を年会費へ繰入済み
雑収入		297		預金利息等
合 計 (A)	2,303,224	2,463,521	2,487,961	
支 出 の 部				
項 目	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	備 考
<b>A 事業費</b>				
総会費	20,000	47,700	50,000	六甲クラブ会場費、懇親会補助金
理事会費	20,000	46,070	40,000	幹事会費
会報発行費	100,000	66,890	100,000	支部便り印刷費(2回/年)
支援費	-	-	-	
<b>B 運営費</b>				
印刷費	50,000	21,784	20,000	総会資料印刷費、封筒、用紙、プリンタ-インク等
通信発送費	250,000	197,308	230,000	切手、ハガキ、郵送料、宅急便費等(支部便り2回/年)
会議費	20,000	26,260	25,000	諸会議等参加費(主に東京六甲クラブ関係会議)
交通費	200,000	169,680	200,000	本部会議等出席 延7名
雑費	25,000	18,868	20,000	振込手数料等
<b>C 維持費</b>				
学友会東京支部年会費	-	-	-	
小 計 (B)	685,000	594,560	685,000	
予備費 (A)-(B)	1,618,224		1,802,961	
次期繰り越し金(年会費等)	(1,013,224)	1,155,961	(1,070,961)	
終身会費繰越金	(605,000)	713,000	(732,000)	
合 計	2,303,224	2,463,521	2,487,961	

#### 4. 新・退任役員の紹介

退任:理事 N5 吉村 耕治さん 長い間ご尽力戴き有難うございました。

新任:理事 N13 須賀 弘さ、E14 井手 祐之さん、E15 道浦 馨さん ご支援宜しくお願いします。

## 5. 神戸大学学友会東京支部・神戸大学東京六甲クラブ関係

1. 海神会からは 7N 森本支部長が副理事長に、13E 田中事務局長が理事に、12N 富久尾監事が代議員に就いています。
2. 主な委員会として会員増強、行事企画推進、CS 向上、IT・広報、等があります。
3. 本年度に凌霜会から数えて 50 周年にあたりますので、記念行事が開催されます。
  - 3.1 10 月 2 日(日) 桂 吉弥 落語会 於 東京六甲クラブ
  - 3.2 10 月 4 日(火) 18:00～記念講演会・祝賀会 於 海運クラブ  
寺島実郎日本総合研究所理事長「世界の構造変化～日本の課題と展望～」
  - 2.3 日野原重明祝祭管弦楽団コンサート 於 東京六甲クラブ
4. 会議は理事会が 5/9:、代議員総会・理事会が 5/27:、理事会・学友役員会が 6/3、9/9、12/9、3/13 に開催されます。
5. 7 月 28 日(木):学長講演会、12 月 22 日:忘年会、1 月 14 日:新年互助会が開催されますので奮っての参加宜しくお願ひします。  
 昨年の忘年会では神戸女学院 OG 合唱団「KC めぐみ」を指揮された方が卒業生の奥方で驚いたり、納得したりの歓談でした。
6. 神戸大学東京六甲クラブでは、会員相互の研鑽と交流・親睦を図り、もって神戸大学の学術振興に寄与することを目的に、次のような盛り沢山な行事が実施されています。
  - 6.1 特別火曜会：原則第 3 火曜日の昼
  - 6.2 木曜会：原則第 4 木曜日 18:00～
  - 6.3 若手の会、
  - 6.4 ミドル会：出光美術館鑑賞
  - 6.5 KRC ビジネスサロン：4 月 21 日開催の第 10 回では森本支部長が講師を務めました。
  - 6.6 音楽会、
  - 6.7 映画鑑賞会
7. これら行事は神戸大学東京六甲クラブの Web サイトに順次紹介され、支部メール便でも紹介していますので、興味の行事には気楽に参加下さい。

## 会員往来（事務局判明分）

1. 次の方々は新しく連絡を頂いた方、あるいは懐かしく復帰された方です。
 

13E 濱 匡、	13E 金澤 素衛	13E 宮崎 将	24E 高松 正樹	27N 池野 洋平
27N 稲岡 俊一	27N 松下 俊和	27N 岡田 政宣	27E 久保 寛	30E 板谷 晋行
2K 斉藤 貞治	2K 西尾 幸	2K 牧野 正純	2K 吉田 善徳	41BE 有田 俊晃
2. 関東以外の地へ移られた方々  
 連絡無し
3. 物故者  
 次の方々が逝去され、ご遺族の方から連絡を頂きました。慎んでご冥福をお祈りいたします。
 

1E 川越 健二	神戸大学企画部卒業生課からの連絡
8E 専 芝 豊明	2015 年 6 月 22 日 芝 敏子様からののがきによる連絡
14E 鎌田 博文	2016 年 3 月 26 日 同期の方からの連絡

#### 4. 不達者

14E 野田 英夫 19N 児玉 敬一 31N 渡辺 兼人 5BT 渡川 真規 50BE 満尾 伸也  
08W 川本 周

### 会員の広場 “Bridge”

#### ボランティアの紹介

##### ▶ 海洋会ボランティアクラブ

・明治丸グループ

明治丸海事ミュージアムの火曜日・木曜日、第 1/第 3 土曜日の明治丸観覧に協力

・ビーチ・クリーンアップグループ

JEAN が主催する春・秋の鵜沼海岸ビーチクリーニング活動に参加

・海洋会支援グループ

海洋会誌「海洋」の封書詰め発送作業への協力

- ▶ 横浜の帆船日本丸では社団法人海洋会横浜支部及び社団法人全日本船舶職員協会横浜支部の協力を得て、帆船日本丸に乗船経験のある元船長・機関長を中心としたガイドボランティアによる船内案内を実施しており、「帆船日本丸ガイドの会」が見学スケジュールに合わせてガイドの調整をしています。経験を活かし帆船につながるガイドにご興味ある方のご協力お待ちしております。

#### 出版の紹介

- ▶ 「船の百科事典」(ISBN978-4-621-08683-4)が船の百科事典編集委員会により平成 27 年 12 月 25 日に丸善出版株式会社から出版され、18E 金子 仁 東海大学教授から紹介戴きました

海に囲まれたわが国では海運によって貿易物資の 99.7%が運ばれており、海運を知ることはすなわち日本経済を知ることであるとも云えます。わが国を支える主要な輸送手段としてもフォーカスし”船とは何か”を船そのものではなく船に関わる事柄として「船を造ること、運航すること、船と船員を管理すること、人や物を運んでビジネスをすること、そして船が訪れる港で仕事をする事」にまとめた事典で、本書はその全貌を解説しています。

海事啓蒙のためにも、是非、近隣の図書館に蔵書申請願います。

- ▶ 原子力砕氷船「レーニン」黒澤 昭(神戸商船大学 名誉教授)・村野 克明 訳 成山堂書店 について 2A 横井 新さんに紹介戴きました。

原子動力学科 2 期生の担任であった故黒澤名誉教授から 2011 年にロシアの原子力砕氷船「レーニン」についての翻訳本を出すつもりでいるとのご連絡を頂きました。黒澤先生ご自身は、誠に残念なことでありますが、2013 年 5 月にご逝去され、そのご遺志をご子息が継がれ、2015 年 10 月に訳本が発売(ISBN978-4-425-30381-6 C3056)となりました。内容は「レーニン」就航 50 周年を記念してロシアで出版された航海記を、黒澤先生が中心となって翻訳したものです。購入を検討して頂ければ有り難く存じます。

書評にも”世界初の民生原子力砕氷船「レーニン」は北極圏航海を 1 年中可能にし、数多くの実績をあげた。その多大な功績と関係者たちの奮闘を豊富な写真、乗組員たちへのインタビューなどを交えて紹介し、原子力砕氷船を技術的、経済的、社会的側面から概観した異色の一冊。”と紹介されています。

#### ここにも同窓生

増田煉瓦社長の 28E 増田 晋一さんが読売新聞 2016 年 1 月 27 日群馬版に “キーマン”として登場しました。以下は新聞記事からの紹介です。

前橋市生まれで神戸商船大学卒業後、地元の電機メーカーに入社し 13 年強勤めた後、退職する。94 年に父が経営する増田煉瓦に入社し 98 年から「大量生産より個性ある商品」を目指して代表を

務める。

前橋市に在る増田煉瓦はレンガ製造会社として 1917(大正 6)年に創業し、来年には 100 周年を迎える老舗で、輸入レンガを用いた窯の製造販売、レンガを加工した煉化石窯の販売を行い、注文者の要望にきめ細かく応じる丁寧な仕事で、県内の道の駅「田園プラザ川場」や新宿南口 NEWoMAN にできたピッツェリア 800°などで同社の窯が使われている。

レンガ窯の製造では、砂でドーム型をつくり、その上にレンガを載せて固めるナポリ方式的な組み立て方式を改め、砂のドーム型を造ることなく、積み上げる途中での崩落を防ぎ、**空洞のままレンガを半球体に積み上げる煉化石窯技術を開発**した。

この技術を活かした組み立て式もあり、東日本大震災の復興支援で東北地方を廻る車載ピザ窯や、歴史ある神社の竈の築炉の継承もおこなっている。

主力商品のピザやパン、肉などを焼くレンガ窯は、大きさや形、デザインなど、すべて要望に応じてつくり、群馬県前橋市の飲食店「ラ・ピッツェリア」「煉化(れんが)の蔵」もアンテナショップとして経営している。全国から注文があり、ベトナム、台湾、ロシア、韓国と海外でも私たちの石窯が活躍している。

**地域貢献**では群馬調理師専門学校(前橋市)の学生には、約 5 年前から課外授業を手伝うなど前橋市・商工会議所を巻き込んでボランティア活動にも精を出している。

**地産地消**では、地域資源の県産の小麦粉、ブルーベリー、リンゴ、イチゴを使ったパンを窯で作って 2013 年度に経産省/農水省の地域産業資源活用支援事業計画に認定された。

**今後の抱負**では、レンガは元々「練って化ける石=煉化石」と書いており、レンガにかかわる事業を考えて、さらに 100 年続く会社になりたいと思う。...と結ばれていました。

以下は増田煉瓦株式会社 代表取締役 増田晋一 (E28 期卒) さんのコメントです。

実家の会社を営む気がなくて、神戸商船大にお世話になりました。卒業後 13 年経過し、のれんを守ってイノベーションできないかということで発起し、電機メーカーからあえて斜陽産業の煉瓦に戻り、現在の石窯ブームを展開いたしました。今では日本全国に小さな市場ですが石窯のピザ窯が行き渡り、船でできなかったことを陸で実現しています。小規模事業者は一隻の船です。時代の波を小さなクルーで操船し、国内からアジアに向け準備中です。業界は異なっても同窓会の皆様には多方面にわたりアドバイスをいただければ幸いです。母校と同じ年に創業したので、弊社も 100 周年事業をしなければ・・・。

### 微笑みの国:タイ 2016 年 4 月

2K 吉田善徳です。

サワディーカップ(こんにちは)、業務上なぜか海外と縁がありイタリア、イギリス、オーストラリア、中国と駐在し 2016 年の 1 月からタイ:バンコクで勤務しています。5 カ国目/駐在歴:15 年目に突入。すっぱくて辛いスープ『トムヤムクン』に豪華なビーチリゾート、キッチンでカラフルな雑貨や手を合わせて微笑みかける人々。タイのイメージはさまざま、タイとはどんな国かを一



タイ航空の CA さんも笑顔でワイイ マクドナルドも笑顔でワイイ  
皆さん チャレンジくださいね！ 掌を完全に合わせるのではなく、中を少し膨らませる。これはワイイが、仏教と縁の深い蓮花の蕾を模していることによる

言で語るのはとても難しいものですが、タイの礼儀作法ワーイについて紹介します。

**「ワーイ」から始まるタイの礼儀作法:**タイの人々のコミュニケーションにおいて、目上の人を敬うのは最も大切なことのひとつです。両親や祖父母をはじめ、教師や先輩など目上の人に会ったとき、さらに感謝や謝罪をするときには、ひじを軽く身体につけ、顔や胸の前で指先を揃えつつ両手を合わせる、「ワーイ」と呼ばれる合掌を行います。一般的に目下の人が先にワーイをし、ワーイをされた人は同じようにワーイで返すのが習慣です。また話す際には、語尾につける丁寧語(女性は「カ」、男性は「クラブ」)も忘れてはいけません。タイの正月であるソンクラーンのお祭りでは、寺院や自宅の仏像に水をかけてから、祖父母や両親の手に水を注ぎ、お祝いの言葉を述べ、その後に友人同士で水をかけあうことになっていますが、この順番もそのような礼儀から来ています。皆さん訪タイする機会があればワーイの合掌にチャレンジください。する方もされる方も気持ちがいいものです。

### 事務局からのお知らせとお願い

関東支部運営の中で定例総会の外に“関東支部局便り”の年2回発行等により会員相互の交流・親睦を図っており、これらの経費には皆様からの支部年会費(千円/年)を充当しています。同封の払込取扱票に必要事項を記入して“ゆうちょ銀行”で**今年度の年会費**を振替して下さいますようお願いいたします。名称が変わっても、深江に学ぶ後輩たちのために、**関東支部活動もご支援下さいますよう重ねてお願い致します。**

尚、今年度以降の支部年会費を払込み戴いた方には、払込取扱票は同封していませんのでご了承ください。該当する年度を封筒宛先の下の学籍番号に続く英小文字で表示しています。英小文字 k は本年度(平成 28 年度)、l は来年度、m は再来年度…、を表しています。なお、**終身会費を納入頂いた方には「寿」**を付記しておりますので、ご確認願います。

また、郵便物(メール便など含む)が**不達**となった方には案内・関東支部便りなどの発送を中止しています。

『会員の名簿は、本部(深江)又は関東支部に連絡があれば都度訂正していますが、名簿からの漏れ、不達を避けるためにも、**各クラス会の幹事役の方、同窓生で”海神会便り””関東支部便り”を受け取っていない方をご存じの方は事務局に連絡下さいますようお願いいたします。**なお、会員名簿は原則非公開であることをご了承ください』

### 海神会関東支部(神戸大学海事科学部同窓会関東支部)

**事務局** (議案書の作成、会員動向の整理、総会の案内などの通信業務、本部との連絡など)

住所: 〒373-0817 群馬県太田市飯塚町 1084-36

田中 貴雄 (海神会関東支部 理事・事務局長)

Tel&FAX: 0276-45-3704

E-mail: kaijinkaikantoh@yahoo.co.jp

\* 会運営についてのご意見などは事務局までご連絡願います。

## 母校（海事科学部・大学院海事科学研究科）の現況と第 2 世紀への進展

海事科学部長・海事科学研究科長 内田誠（E26）

### 1. はじめに

1981 年 3 月（乗船実習科制度移行 2 期目）に深江から巣立ち、1 年 7 ヶ月の造船所（KHI 神戸）勤務を経て、故橋本淳先生（推進及び機関管理）、古川守先生（蒸気原動機関学）の助言により 1982 年 11 月から母校に戻り、教育・研究・社会貢献・運営に携わり 33 余年が経ちました。2015 年 10 月からは、任期 2 年で大学院海事科学研究科長と海事科学部長を併任して務め、母校の発展を指揮する立場として重責を感じています。海神会の皆様には母校の現況を理解いただき、今後の進展に対して大所高所からの支援を賜りたくお願い申し上げます。

### 2. 教育研究組織と教員組織

#### 2-1) 2013 年以降入学者の学部学科構成

2013 年 4 月に「海洋立国を支える海技者養成教育の高度化と総合性を備えたグローバル海洋人材の養成」をキャッチフレーズに海事科学部の改組を行いました。学年進行を経た 4 年目の今年、全学年が新カリキュラムを採用する完成年度を迎え、来年春秋には新カリキュラムを経た学部卒業生・乗船実習科修了生が社会で活躍を始めます。

学部 1 年では、全学共通授業科目を主に学ぶため、月曜から木曜までは六甲台地区の鶴甲第 1 キャンパスに通い、金曜日は深江キャンパスで海事科学部共通科目を学びます。2 年進級時に学科を選択し、以降は大半を深江キャンパスで学びます。グローバル輸送科学科およびマリンエンジニアリング学科では、2 年進級時あるいは 3 年進級時に学科内でコースを選択し、各々のコースにおける専門性を高めます。3 学科および 2 学科内各 2 コースの概要は以下の通りです。

#### **【グローバル輸送科学科】**（定員 80）

航海システムの船舶運航・管理技術、交通運輸産業における経営管理等に関する学理を学び、地球規模の物流の基盤を支える輸送体系の高度化に貢献する。

##### ・航海マネジメントコース（最大収容 50）

海技士（航海）教育訓練（MET）を経て、船長および海事社会のリーダーを目指す。

##### ・ロジスティクスコース（最大収容 50）

物流分野における経営管理のスペシャリストおよび関連行政官を目指す。

#### **【海洋安全システム科学科】**（定員 40）

地球環境保全、エネルギーの安定確保、海域災害に対する安全確保に関する学理を学び、海洋の開発・活用・保全および安全・安心社会の維持に貢献する。

海洋機械・プラント産業の技術管理のスペシャリストおよび関連行政官を目指す。

#### **【マリンエンジニアリング学科】**（定員 80）

船舶機関システムの運用管理技術、海事分野におけるエネルギー利用、メカトロニクス技術に関する学理を学び、高効率・環境保全に配慮した低炭素社会の実現に貢献する。

##### ・機関マネジメントコース（最大収容 40）

海技士（機関）教育訓練（MET）を経て、機関長および海事社会のリーダーを目指す。

##### ・メカトロニクスコース（最大収容 55）

輸送機械・エネルギープラントの設計製造管理のスペシャリストおよび関連行政官を目指す。

詳細情報）<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/admission/sp/about/index.html>

2-2) 2013 年以降入学者の船舶実習

海事科学部・乗船実習科は、国土交通省に第一種船舶職員養成施設として登録し、三級海技士養成教育を担っており、海技資格取得希望学生には、在学中に通算 12 ヶ月の船舶実習が課されます。対象は、グローバル輸送科学科・航海マネジメントコース、マリンエンジニアリング学科・機関マネジメントコースおよび乗船実習科（航海課程，機関課程）です。

小中高生などの青少年において外航商船の航海士・船長に関する理解が一定程度あるものの、機関士・機関長に関する情報と理解がほぼゼロであることを鑑み、マリンエンジニアリング学科ではコース選択前の全員を対象に 1 ヶ月間の船舶実習を必修として課し、理解促進を図っています。その結果、機関マネジメントコースでは、船舶機関管理・船舶機関士の世界を船舶実習で初めて知り興味を持ったと目を輝かせている者がほとんどを占めています。

船舶実習の実施概要は以下の通りです。

**【2 年次 1 ヶ月 8 月下旬～9 月下旬 最大 160 人 実数 120 人程度】**

グローバル輸送科学科・航海マネジメントコース

マリンエンジニアリング学科（コース選択前，学科全員）

海技教育機構（JMETS）練習船で実施（旧航海訓練所（NIST）は 2016 年 4 月に海技教育機構と統合）

神戸大学海事科学部の単独プログラム（従来と変更無し）

**【3 年次 2 ヶ月 10 月～11 月 最大 100 人 実数 80 人程度】**

グローバル輸送科学科・航海マネジメントコース

マリンエンジニアリング学科・機関マネジメントコース

JMETS 練習船で実施

神戸大学海事科学部の単独プログラム（従来は、東京海洋大学海洋工学部の共通プログラム）

**【4 年次 3 ヶ月 1 月～3 月 最大 100 人 見込み 50 人程度】**

グローバル輸送科学科・航海マネジメントコース

マリンエンジニアリング学科・機関マネジメントコース

JMETS 練習船で実施

神戸大学海事科学部と東京海洋大学海洋工学部の共通プログラム（従来と変更無し）

**【乗船実習科 6 ヶ月 4 月～9 月 最大 90 人 見込み 50 人程度】**

4 年次 3 ヶ月の船舶実習履修者はほぼ全員、乗船実習科（航海課程・機関課程）に進学の見込み

JMETS あるいは船社の練習船で実施（社船練習船による実習は、学生の選択および船社の選考が両立の場合に実施、2009 年からトン数標準税制に併せて社船実習制導入）

神戸大学乗船実習科と東京海洋大学乗船実習科の共通プログラム（従来と変更無し）

これら船舶実習の時期、最大受入数、実数（見込み）は、2011 年度に産官学から委員が参加して開催された「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会」（国交省）の審議過程および結果に基づき、NIST（当時、現 JMETS 航海訓練部）との調整を経て改定したものです。

参考情報）[http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk4\\_000007.html](http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk4_000007.html)

2-3) 2017 年大学院海事科学研究科改組（予定）

2013 年度海事科学部改組の時から予定していた 2017 年度の大学院海事科学研究科改組について、文部科学省との折衝など最終段階を迎えています。

**【改組の目的と概要】**

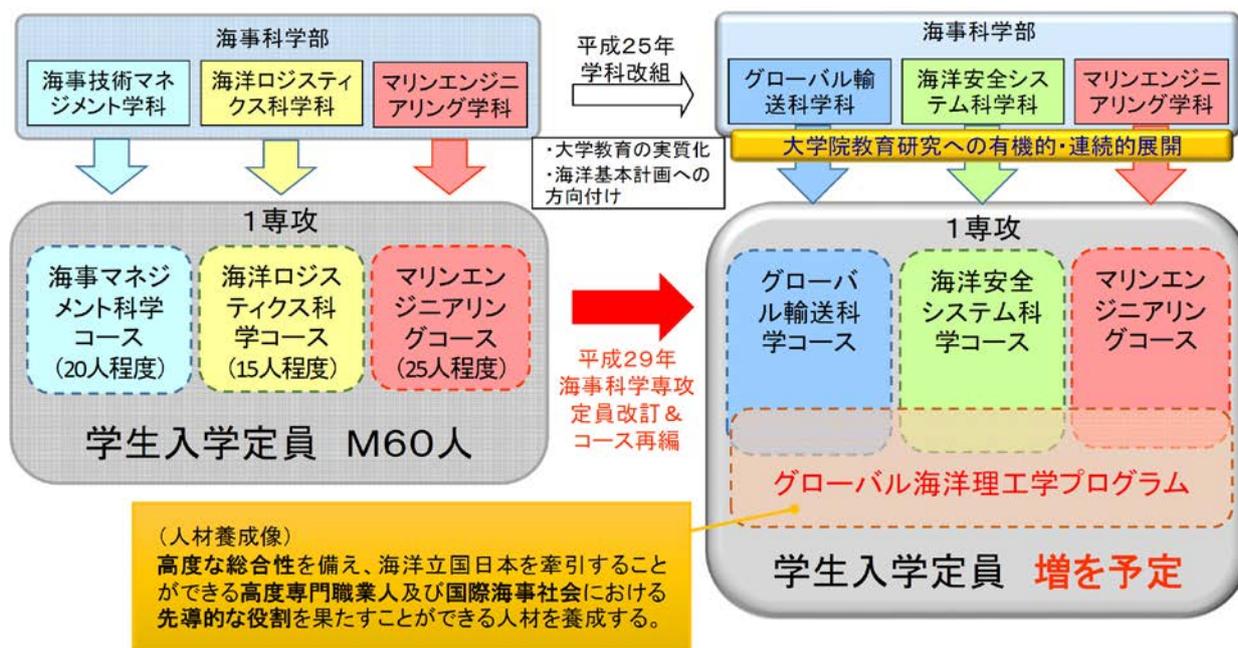
- ・海洋基本計画など海事社会の状況変化への対応と共に、学部・大学院教育研究を有機的連続的に展開し、教育研究体制の強化を図る。
- ・「未来の海 パイオニア育成プロジェクト」等の国策として求められる海洋における高度技術者の育成需要の高まりへ呼応し、「グローバル海洋理工学プログラム（仮称）」を展開する。

- ・ミッションの再定義で謳う「グローバルに活躍できる人材を育成する学部・大学院教育を目指した不断の改善・充実」を実践する。
- ・学生定員比率[前期課程/学部]の改善を図り、より多くの優秀な人材を輩出することにより、海事産業や海事社会への貢献度を高め、海洋立国日本の発展に寄与する。

なお、「充実」および「比率改善」のために、博士課程前期課程（修士教育）の定員増を要求して、折衝ならびに調整中ですが、定員増は未確定です。

大学院海事科学研究科改組（予定）の全容を下図に示します。

図 2017 年度 大学院海事科学研究科改組（予定）の全容



#### 2-4) 教員組織としての講座（系）の構成

教員は講座（系）に所属し、主として直結する学科・コースの教育研究を担当していますが、多数の教員が複数の学科・コースの教育研究を担っています。

表 教員の配置現況（2016年4月現在）

（単位：人）

	教授	准教授	講師・助教	計
グローバル輸送科学系	13	20	1	34
海洋安全システム系	9	7	4	20
マリンエンジニアリング系	14	9	2	25
講座（系）以外	0	1	4	5
計	36	37	11	84

注) 海事科学部・海事科学研究科の教育研究を担当する専任および兼任を含む。  
 講座（系）以外は、外国人特任、プロジェクト型特命など、有期間雇用である。  
 定年退職後半年間採用自粛制限等により、上記現職と別途空席4あり。  
 詳細情報) <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/professors/index2013.html>

#### 3. 海事科学研究科附属練習船深江丸

学内練習船「深江丸」は28歳を超えた老婆となりましたが、従来から文部科学省旅費規程上「第四種船」として、「日帰りを常態とする船舶」と各付けられながらも、多様な需要に応えるため1週間超の航海4回を含め年間出動日数が130日強まで増加しており、予備員ゼロの現況では乗組員

の法定休暇を確保することにも苦慮するほど大活躍しています。

### 3-1) 深江丸三世（1987 年 10 月就航）

現在の深江丸は大学練習船として三世であり、1987 年 4 月 14 日三井造船玉野事業所において起工、同 7 月 10 日進水、同 10 月 14 日「高度知能化練習船」として就航し、28 年余が経過しました。一世の就航期間 9 年および二世の就航期間 19 余年に比べると彼女の長寿が際立ちます。

詳細情報) <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gmsc-fukaemaru/>

### 3-2) 教育関係共同利用拠点（2014 年 8 月 8 日年文部科学省認定）

文部科学省が導入した教育関係共同利用拠点制度に則り、練習船「深江丸」は「グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点」として認定され、年間約 25 日間は他大学の教育共同利用に供しています。利用大学の需要に応じ、和歌山港、姫路港等に回航することもあります。女子大学や心理学部などの利用では女性の乗船者が多数を占めるため、乗船者の衛生指導・健康管理を目的に学内保健学研究科の協力を得て、看護師資格を有する女子大学院生等を看護手として配乗しています。

参考情報) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/26/08/1350749.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1350749.htm)

### 3-3) 代替船建造検討

第一種船舶職員養成施設として、また、海事科学技術を備え海洋を舞台として活躍できる人材育成拠点として、練習船は最重要な施設設備の一つであり、代替船建造の検討を開始しました。改正 MLC へ適合するためには、現深江丸の機能を維持するだけでも確実に増トンとなり、高度海技者養成拠点に加えて、海洋研究開発技術者育成拠点、教育共同利用拠点としての機能を高めるためには、大幅な増トンが必要となります。その一方で、建造予算の確保だけではなく、増トンによる法定定員増の人員（&人件費）確保、燃費・入渠検査・保守工事費等の維持費確保などの制約があり、悩ましい課題を克服していかなければなりません。

## 4. 最近のトピック

### 4-1) 武田ビジョン（卓越研究大学、研究大学強化促進事業、重点支援の枠組み）

2015 年 4 月に就任した武田廣学長が示した神戸大学の運営方針（通称：武田ビジョン）では、「世界最高水準の教育研究を行う大学」として「世界ランキングトップ 100 位以内」、「国内ランキングトップ 5 位以内」を実現すると目標を掲げました。武田ビジョンに応じて、海事科学研究科においても、今春から始まった国立大学法人第三期中期目標期間（2016～2021 年度）および次期の第四期中期目標期間（2022～2027 年度）で評価指標毎に達成を目指す目標を設定し、実現に向けて実践と点検・評価反映・改善計画を繰り返す態勢を整えています。

文部科学省の文教関係予算が大きく変化しない中で、大学の運営公費金は毎年確実に削減されており、その一部を研究大学強化促進事業として世界水準の研究大学群の増強を図る取り組みが 2013 年度から始まっています。神戸大学は、平成 25 年度文科省「研究大学強化促進事業（22 機関）」に採択され、10 年間の支援を受けることになりました。

第三期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方が文部科学省から昨年 6 月に示され、機能強化の方向性に応じた運営交付金の重点配分の枠組みが以下の 3 種類に設定され、大学単位で自主的に選択することとなり、神戸大学は武田ビジョンに則り、③を選択しています。

- ① 地域と特色分野の教育研究（地域）
- ② 特色分野の教育研究（特色）
- ③ 卓越した海外大学と伍した教育研究と社会実装（世界）

カテゴリー③を選択した 16 大学の中で神戸大学は、2016 年度の予算配分において、京都大学、九州大学と共に最高評価を得ています。

海事科学研究科は、「海に開かれた総合大学」の中核を担う部局として、「世界の卓越研究大学」を目指す一部局として、高い責任感を持って活動向上を図ることが求められています。

参考情報) [http://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/usr/press/press\\_20150515-1.pdf](http://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/usr/press/press_20150515-1.pdf)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/sokushinhi/](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/)  
<http://www.research.kobe-u.ac.jp/gksh-web/ura/duties/>  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2015/06/16/1358943\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/06/16/1358943_2.pdf)  
<http://newswitch.jp/p/2058>  
[http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG09H8S\\_Z00C16A3CR8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG09H8S_Z00C16A3CR8000/)

#### 4-2) 年俸制

「国立大学改革プラン」(2013年11月26日文科省公表)において、人事・給与システムの弾力化を進めることが示され、神戸大学では2014年度から一部教員が年俸制に移りました。教員活動評価結果に基づき、一定の基準に則り年俸額を学長が定める制度です。まだまだ過渡期ですが、有能な研究者を厚遇できる利点がある反面、研究成果を短期間で示すことのできる研究計画に偏重する恐れがあり、また、人件費総予算が厳しい状況にあるなど、制度推移を冷静に見守り必要な改善を図らなければなりません。

参考情報) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/gijyutu/023/shiryu/\\_icsFiles/afieldfile/2015/02/19/1355362\\_03\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/gijyutu/023/shiryu/_icsFiles/afieldfile/2015/02/19/1355362_03_1.pdf)

#### 4-3) テニュアトラックプログラム

第4期科学技術基本計画(2011年8月19日閣議決定)に則り、優れた研究者の養成のため、一定の流動性と共に関手研究者のポストを確保してキャリアパスの整備を進める一貫として、テニュアトラック制が普及しつつあり、神戸大学でも2015年度にテニュアトラックプログラムが制定されました。海事科学研究科では優秀な若手教員を求めめるため、早速、本プログラムを活用して公募を進めました。(本原稿執筆現在は、募集期間中です。)

テニュアトラックプログラムとは異なるものの、同じ趣旨および形態(有期、承継ポスト準備、承継への移行審査)での若手教員採用は、海事科学研究科において先行しており、先述の教員配置現況表中の講座(系)以外として既に3名が教育研究に勤んでいます。

参考情報) <http://www.research.kobe-u.ac.jp/gksh-tt/index.html>  
<http://www.jst.go.jp/tenure/about.html>

#### 4-4) ミッションの再定義

国立大学法人86大学全ての学部が、社会に対する役割を国民に対して明示するため、2年前にミッションの再定義を行いました。海事科学部は文部科学省による「特定分野(理系)」の категорияで公表しており、社会的役割の要点は、以下の通りです。

- 海事に対する深い理解と総合的な視点を有する高度技術者の育成、専門的な海事に関する科学技術を備えた指導的人材の育成。
- 海技者養成教育の高度化と総合性を備えたグローバル海洋人材の養成、国際海上輸送に係る海技者・船舶職員の供給とより実践的な海事教育を目指した一層の改善。
- 海事・海洋分野を中心とした学際的な研究の推進。
- 海洋に関する国民の理解の増進と国際海事大学連合の諸活動等々による国際海事社会への貢献。
- 社会の要請に応じた社会人の学び直し推進。

ミッションの再定義を実践すると共に、先述の武田ビジョンの実現に向けた確実な進展が求められています。

参考情報) <http://www.kobe-u.ac.jp/info/outline/mission-redefinition/>  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/1346509.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1346509.htm)

#### 4-5) 未来の海 パイオニア育成プロジェクト

海神会の皆様は、既に熟知されていることと思いますが、昨夏の第 20 回「海の日」特別行事総合開会式において、安倍内閣総理大臣が、「海洋開発技術者の育成をオールジャパンで推進するため、産学官を挙げたコンソーシアム「未来の海 パイオニア育成プロジェクト」を立ち上げ、現在 2,000 人程度とされる日本の海洋開発技術者の数を、2030 年までに 5 倍の 1 万人程度に引き上げることを目指す。」とスピーチされています。

神戸大学において、学内では海事科学研究科、理学研究科、海洋底探査センターが協力し、包括連携協定を締結している JAMSTEC と人材育成に関しても連携を高め、海事・海洋に関する他大学学生にも提供可能な練習船を活用した海洋人材開発プログラムの構築を検討しています。

参考情報) [http://www.kantei.go.jp/jp/97\\_abe/statement/2015/0720uminohi.html](http://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/statement/2015/0720uminohi.html)

#### 4-6) モニュメント (川崎商船学校, 神戸高等商船学校, 神戸商船大学)

1995 年 1 月 17 日 5 時 46 分に倒壊した神戸商船大学正門の門柱の一部を利用して、深江キャンパスの歴史を振り返る先代三校の門柱と、1917 年開校以来変わりのない六甲の山並みに第二世紀への飛躍を表す二本の曲線からなるモニュメントを、2016 年 3 月に設置しました。右端の門柱の上部および下部に色の異なる石材が目につきますが、倒壊門柱の一部であり、裏面にヒンジの一部が残っています。



写真 先代三校の歴史モニュメント

三校の写真 4 枚も配置しており、各時代の重複する施設 (例えば、現 1 号館、養正館) を遡れば、開校当初の正門、煉瓦作りの本館、ポンドの位置等を現在のキャンパスと対比できます。5 月 28 日の海神会総会、10 月 29 日のホームカミングディには是非足をお運びいただき、ご確認いただければ幸いです。

#### 4-7) 海事科学部創基 100 周年

川崎正蔵翁、川崎芳太郎先生、川崎武之助先生の川崎家三代により、深江キャンパスにおける海事教育の礎が築かれました。川崎商船学校開校 1917 年を起源として来年には海事科学部創基 100 周年を迎えます。創基 100 周年記念事業として、海事科学部および海事科学研究科の教育研究の更なる発展、国際海事研究センターの発展および附属練習船深江丸の代替新造船の実現等を推進するため、募金活動を行っていますので、御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、2017 年は神戸開港 150 年も同時に迎え、神戸市では神戸開港 150 年記念事業を推し進められており、神戸大学学長が実行委員の一人として参画し、海事科学研究科長が委員代理を務めています。神戸大学海事博物館の恒例の企画展 (7~10 月) として、2016 年、2017 年の 2 ヶ年にわたり、「神戸における海技者教育 100 年の歩み」(仮題) を開催する予定であり、神戸開港 150 年関連行事としても位置づけられます。

参考情報) <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gmsc-100kinen/index.html>  
<http://www.kobeport150.jp/>

#### 4-8) ホームカミングデイ

神戸大学ホームカミングデイは、今年で 11 回目を迎え、10 月 29 日（土）に開催されます。卒業生の皆さんに母校を訪問していただき旧交を温める機会として定着しました。午前中は六甲台キャンパスで全学行事が催されますが、午後は学部行事がそれぞれ予定され、海事科学部行事として深江キャンパスで各種行事を予定しています。海神会評議会も開催される見込みです。

全体プログラムは現在未公表ですが、午前中の全学行事における記念式典講演で、今年には神戸商船大学商船学部航海学科を 1981 年に卒業された田端仁一氏（N26）が講師を務める予定です。卒業後、航海士を経て、外資系銀行の副頭取を務めた後、海運会社の会社更生を成功させ、現在は同社代表取締役社長を務められています。武田廣学長が田端仁一氏の奇才に注目されて講師を依頼されたとのこと。

参考情報）<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/alumni/hcd/index.html>

※本年度開催情報は未掲載ですが、まもなく掲載される見通しです。

#### 5. 第 2 世紀への進展

海事科学部・海事科学研究科が第 2 世紀へ進展して教育研究を高め社会貢献を実践するためには、1952 年 4 月 16 日に議員提案され、国会審議可決を経て 5 月 26 日に公布された国立学校設置法の一部改正（神戸商船大学の創設）を常に念頭に、学部の MET としての強い特色を活かしながら卓越研究大学の一員としての責務および貢献を確実に果たしていかなければなりません。このためには、構成員が十分に認識して奮闘することは必須条件として当然であり、加えて、卒業生をはじめとする海事社会の皆様のご理解が絶大な助力であり必要条件の 1 つと言えます。

第三期中期目標期間の中期計画、特に重点 5 項目、そして機能強化の評価指標の目標設定など、具体情報を本紙面に表現することは控えますが、直接の懇談では情報をお示しした上で助言・叱咤激励を賜りたく、お願い申し上げます。是非、母校に足をお運び下さい。

#### 6. おわりに

海神会関東支部長森本靖之様、同事務局長田中貴雄様には、関東支部会員の皆様への直接情報発信の機会を提供下さり、深く感謝申し上げます。海神会関東支部の益々の発展を祈念します。最後までお付き合いいただいた読者の皆様、有り難うございました。皆様のご母校来訪、そしてご助言、各種情報をお待ち申し上げます、

キャンパス内所在 2 号館北棟 2 階東寄り 推進システム工学研究室（078-431-6295）

または

事務棟 3 階 研究科長室（078-431-6201）

メールアドレス uchida@maritime.kobe-u.ac.jp

（2016 年 4 月下旬 深江にて）